

社会資本総合整備計画

大野城市中心市街地まちづくり計画(第2回変更)

令和 7 年 1 月 8 日

福岡県大野城市

(参考様式2) 社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金）

令和7年1月8日

計画の名称		大野城市中心市街地まちづくり計画										重点配分対象の該当													
計画の期間		令和3年度 ～ 令和8年度（6年間）					交付対象		大野城市																
計画の目標																									
大目標		連続立体交差事業に伴い、駅周辺の都市基盤整備を充実させるとともに、大野城市の魅力を市内外に発信する新たなまちの顔としての空間を創出する。																							
目標1		駅周辺施設の整備により駅の利便性を向上させるとともに、乗換え等における快適な歩行者導線の確保により、交通結節点としての機能を高める。																							
目標2		安全安心に歩行ができるゆとりのある良質な歩行空間を形成し、市内の公共施設等を含む地域資源への回遊性を高める。																							
目標3		連続立体交差事業による高架下空間等を有効活用し、新たな交流拠点の整備により中心市街地に賑わいを創出する。																							
計画の成果目標（定量的指標）																									
・連立事業に伴う中心市街地整備の市民満足度																									
・沿線道路の歩行者数																									
・賑わい創出イベントの開催回数																									
定量的指標の定義及び算定式																									
		定量的指標の現況値及び目標値						備考																	
		当初現況値 (R2当初)			中間目標値 (R5末)			最終目標値 (R8末)																	
連立事業に伴い整備する駐輪場等の駅周辺整備に対する市民満足度		3.00点			3.09点			3.24点																	
計画区域内沿線に位置する市役所、公共施設（市役所、駅等）や商業施設等の生活関連施設を結ぶ路線の歩行者数		11,077人/日			11,500人/日			13,300人/日																	
中心市街地内で開催する賑わい創出に関するイベント回数		27回/年			21回/年			60回/年																	
全体事業費		合計 (A+B+C+D)		5,956 百万円		A		5,956 百万円 (うち提案事業分 61百万円)		B		0百万円		C		0百万円		D		0百万円		効果促進事業費の割合 C／(A+B+C+D)		0.0%	

交付対象事業

A 基幹事業

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）						全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									R3	R4	R5	R6	R7	R8				
A-1	都市再生	一般	大野城市	直接	大野城市	大野城市中心市街地地区都市再生整備計画	道路、公園、地域生活基盤施設、高質空間形成施設	大野城市							5,610			
A-2	道路	一般	大野城市	直接	大野城市	福岡都市計画事業下大利駅東土地区画整理事業	都市再生土地区画整理 8.3ha	大野城市							64			
A-3	街路	一般	大野城市	直接	大野城市	福岡都市計画事業下大利駅東土地区画整理事業	土地区画整理事業 8.3ha	大野城市							282			
合計														5,956				

B 関連社会資本整備事業（該当なし）

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）						全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									R3	R4	R5	R6	R7	R8				
															0			
合計																		

C 効果促進事業（該当なし）

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）						全体事業費 (百万円)	備考
									R3	R4	R5	R6	R7	R8		
															0	
合計																
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	

D 社会資本整備円滑化地籍整備事業（該当なし）

番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）						全体事業費 (百万円)	備考
									R3	R4	R5	R6	R7	R8		
															0	
合計																
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

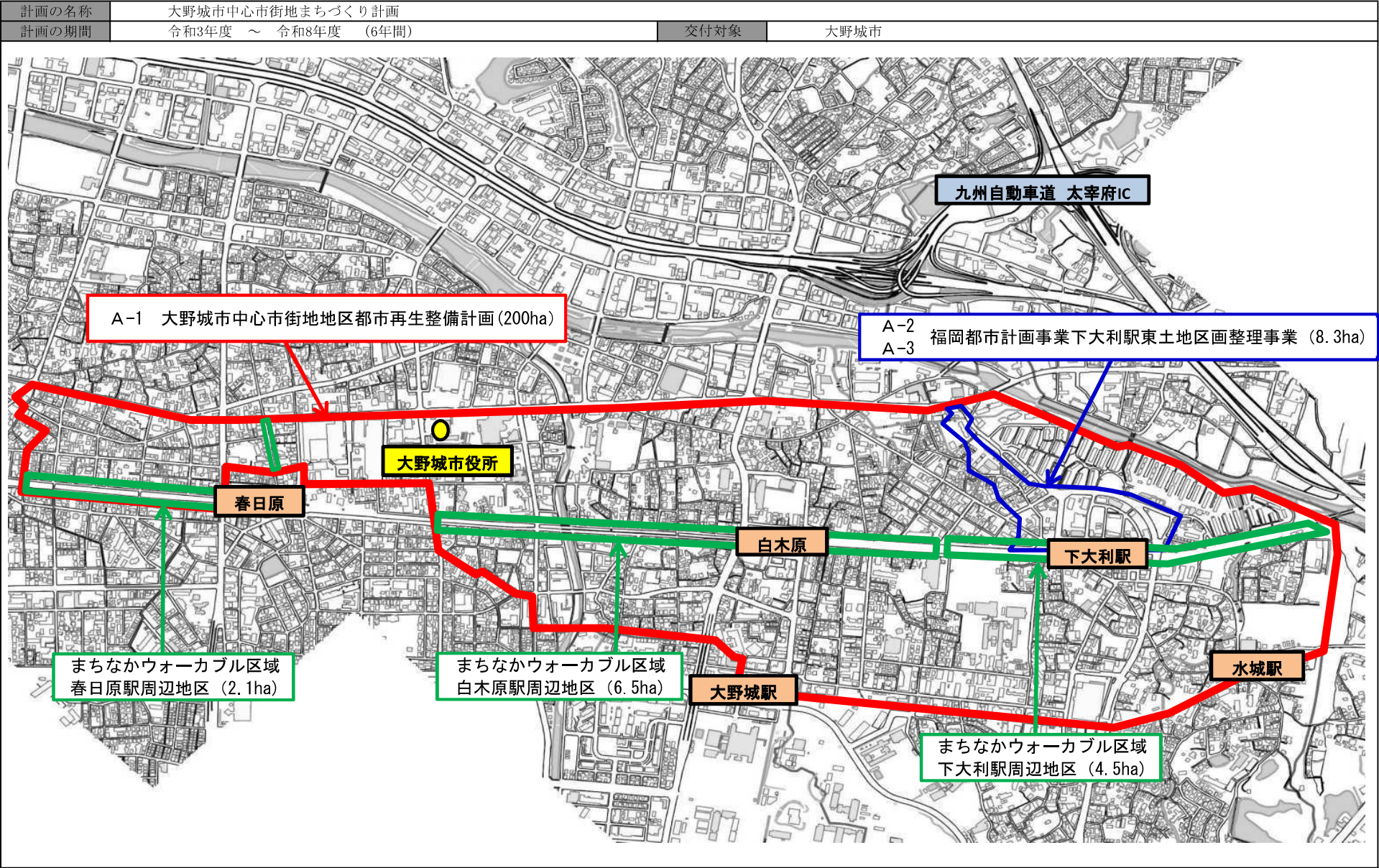
交付金の執行状況

(単位:百万円)

	R3	R4	R5	R6	R7
配分額 (a)	110.6	126.979	372.091		
計画別流用 増△減額 (b)	83.0	－	－		
交付額 (c=a+b)	193.6	126.979	372.091		
前年度からの繰越額 (d)	－	111.86	81.351	187.949	
支払済額 (e)	81.74	157.488	265.493		
翌年度繰越額 (f)	111.86	81.351	187.949		
うち未契約繰越額 (g)	－	－	10.18		
不用額 (h = c+d-e-f)	－	－	－		
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	－	－	0.022		
未契約繰越＋不用率が10%を超えている 場合その理由	－	－	－		

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

(参考様式3) 参考図面 (社会資本整備総合交付金)



都市再生整備計画

おおのじょうしちゆうしんしがいち
大野城市中心市街地地区(第2回変更)

ふくおかけん おおのじょうし
福岡県 大野城市

令和7年1月8日

活用する交付金	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☒

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	福岡県	市町村名	大野城市	地区名	大野城市中心市街地地区	面積	200	ha
計画期間	令和3年度～令和8年度	交付期間	令和3年度～令和8年度					

目標
大目標 連続立体交差事業に伴い、駅周辺の都市基盤整備を充実させるとともに、大野城市の魅力を市内外に発信する新たなまちの顔としての空間を創出する。
目標1 駅周辺施設の整備により駅の利便性を向上させるとともに、乗換え等における快適な歩行者導線の確保により、交通結節点としての機能を高める。
目標2 安全安心に歩行ができるゆとりのある良質な歩行空間を形成し、市内の公共施設等を含む地域資源への回遊性を高める。
目標3 連続立体交差事業による高架下空間等を有効活用し、新たな交流拠点の整備により中心市街地に賑わいを創出する。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・本市中心市街地には2本の鉄道（西鉄天神大牟田線・JR鹿児島本線）が縦断しており、4つの鉄道駅が位置している。さらに九州自動車道太宰府ICや福岡都市高速道路、福岡空港までのアクセスも良く、非常に交通の便に恵まれた立地条件にあることから、住宅都市（ベッドタウン）として発展してきた。 ・市街化区域の約60％が土地区画整理事業等の開発によって造成された土地であり、それらの開発により昭和40年代から50年代にかけて急激に人口が増加し、住民間の交流の希薄化が行政課題として顕在化したことから、目指すべき都市像を「コミュニティ都市」として、住民間の交流の創出・活性化をまちづくりの重点施策としてきた。 ・中心市街地では都市化が進んだ一方で、国指定特別史跡大野城跡や水城跡、国指定史跡牛頸須恵器窯跡群等の貴重な文化財や豊かな自然が残されており、これまでも都市再生整備計画画において、それらの地域資源を結ぶ大野城トレイルや拠点施設となる大野城心のふるさと館の整備を実施することで、市民のふるさと意識の醸成に取り組んでいる。 ・平成29年8月に人口10万人を突破し、現在も微増している状況である。国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」によると、この傾向は2035年頃まで続くとしており、特に交通の便に恵まれた本市中心市街地内での住宅需要は高い水準で推移していくものと思われる。 ・平成15年から西鉄天神大牟田線の連続立体交差事業（県事業）が実施されており、令和4（2022）年度の高架切替、令和6（2024）年度の事業完了予定にあわせ、土地区画整理事業や街路事業等の関連する都市基盤整備事業を実施している。
課題 ・駅周辺に複数設置してある自転車等駐車場は、駅からの距離が離れている等の理由から、稼働率に大きな差がある。また、周辺商業施設や歩道上等への違法駐輪により、歩行者の通行を阻害しているため、駅利用者にとって利便性の高い駐輪施設を駅付近に集約し整備する必要がある。 ・駅前広場内や駅周辺はバスやタクシー等の公共交通の他、自家用車や荷捌き車等の無秩序な駐車車により、慢性的な交通渋滞が引き起こされているため、駅前広場等の限られた空間内で適切な機能分担が必要である。 ・鉄道両側にある既存の側道は道路幅員が狭く、歩道のない区間が連続しており、歩行者の安全性が確保されていない。また、公共施設や駅等の生活関連施設を結ぶ生活関連経路において、バリアフリー未対応の路線が多数残存する。 ・本市における一人当たりの公園面積は国が定める基準よりも低く、特に本計画区域の大部分を占める中央コミュニティ地区は市内において最も公園の少ない地域であり、中心市街地内における住民の憩いの空間が不足している。 ・連続立体交差事業により物理的な分断は解消されるが、長年鉄道を隔て別々のコミュニティが形成されているため、東西のコミュニティをつなぐ新たな交流拠点の創出が必要である。 ・駅周辺の商店街には空き店舗が目立ち、人通りも少ないため、賑わいのあるまちづくりが望まれているが、賑わいの創出拠点となる施設が不足している。 ・住宅都市として発展してきた背景から、観光等を目的とした来訪者が少ないため、新たな交流人口創出のための仕掛けが必要である。
将来ビジョン（中長期） ・第6次総合計画後期基本計画（令和6年3月策定）において、持続可能で機能的な都市空間を形成するため、高架下と駅前広場・側道などの一体的な整備を行い、魅力的でにぎわいのある都市空間の創出を図ると定める。 ・大野城市都市計画マスタープラン（平成24年3月改訂）において、交通結節点としての機能を高めるため、駅へのアクセス道路や駐輪場等の基盤整備や、利便性や防災機能を向上させる生活道路の整備、市民ニーズに対応した公園づくり、歴史的文化財の保護、活用に係る施設の整備とその周辺環境の保全等が位置付けられている。 ・大野城市中心市街地活性化基本計画（平成29年3月策定）において、便利なまち、やさしいまち、賑わうまちを基本方針とし、連立事業にあわせた基盤整備が位置付けられている。 ・高架下利用基本計画（令和2年9月策定）において、高架下及び側道等の整備方針が位置付けられている。 ・大野城市バリアフリー基本構想（平成29年3月策定）において、本計画区域は重点整備地区として設定されており、市役所や駅、病院等の公共施設や商業施設等の生活関連施設を結ぶ生活関連経路の整備が位置付けられている。 ・大野城トレイル基本計画（平成27年3月策定）において、本計画で整備予定の路線や施設が市内を巡る散策ルートとして位置付けられている。 ・大野城市まちの活力創出基本計画（平成27年3月策定）において、高架下とその周辺を活用した賑わいエリアの創出や、市内消費を促進するための仕掛けづくりが位置付けられている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目 標 値	
							目標年度
連立事業に伴う中心市街地整備の市民満足度	点	連立事業に伴い整備する駐輪場等の駅周辺整備に対する市民満足度を指標とする。	駅の利便性向上を測る指標。	3.00	R2	3.24	R8
沿線道路の歩行者数	人/日	計画区域内沿線に位置する市役所、公共施設(市役所、駅等)や商業施設等の生活関連施設を結ぶ路線の歩行者数を指標とする。	良質な歩行空間の形成と市内回遊性を測る指標。	11,077	R2	13,300	R8
賑わい創出イベントの開催回数	回/年	中心市街地内で開催する賑わい創出に関するイベント回数を指標とする。	中心市街地内での賑わい創出を測る指標。	27	R2	60	R8

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
○整備方針1 駅周辺施設の整備により駅の利便性を向上させるとともに、乗換え等における快適な歩行者導線の確保により、交通結節点としての機能を高める。 ・連立事業に伴い線路両側にある側道を整備することで、歩行者、自転車、自動車の駅へのアクセス機能を高める。 ・駅の近くに自転車利用者のための駐輪場を整備することで、周辺施設への違法駐輪の減少や、自転車利用の促進による交通渋滞の解消を目指す。 ・連立事業に関連した駅前整備にあわせ、バスや自動車送迎用のシェルターを設置することで、駅利用者の乗換えの利便性の向上と、駅周辺に点在していた送迎のための路上駐車を集約させることにより、駅周辺の交通渋滞の解消を目指す。		・側道雑餉隈線【道路】 ・側道栄町線【道路】 ・側道瓦田1号線【道路】 ・側道瓦田2号線【道路】 ・側道中央1・2号線【道路】 ・錦町2305号線【道路】 ・上大利白木原線【道路】 ・白木原水城駅線【道路】 ・下大利1788号線【道路】 ・白木原駅西口駅前広場歩行者用シェルター【滞在環境整備事業】 ・下大利駅西口駅前広場歩行者用シェルター等【滞在環境整備事業】 ・下大利駅東口駅前広場歩行者用シェルター【滞在環境整備事業】 ・白木原下大利駅間歩行者用シェルター【滞在環境整備事業】 ・春日原駅北側高架下駐輪場【地域生活基盤施設】 ・白木原駅北側高架下駐輪場【地域生活基盤施設】 ・白木原駅南側高架下駐輪場【地域生活基盤施設】 ・下大利駅北側高架下駐輪場【地域生活基盤施設】 ・下大利駅南側高架下駐輪場【地域生活基盤施設】 ・コミュニティバス運行事業【地域創造支援事業】
○整備方針2 安全安心に歩行ができるゆとりのある良質な歩行空間を形成し、市内の公共施設等を含む地域資源への回遊性を高める。 ・駅や商業施設等を結ぶ生活関連経路において、本市が定めたバリアフリー基本構想に対応した道路整備を行うことで、住民が安心して安全に生活できる歩行空間を確保する。 ・高架下に緑道を整備することで、安全で安心な歩行空間を確保する。また、南北をつなぐ緑道とあわせ、牛頸川鉄道橋を拠点として整備することで東西方向(東:牛頸川～御笠川河川敷、西:県営春日公園)への回遊性の向上を目指す。 ・高架下に新たな地域資源となる緑道や公園、広場等を設置することで、中心市街地内の回遊拠点となると同時に地域住民の憩いの場を創出する。		・高架下緑道【高質空間形成施設】 ・雑餉隈・栄町高架下交流広場【地域生活基盤施設】 ・牛頸川鉄道橋広場【地域生活基盤施設】 ・白木原高架下公園【公園】 ・側道雑餉隈線【道路】 ・側道栄町線【道路】 ・側道瓦田1号線【道路】 ・側道瓦田2号線【道路】 ・側道中央1・2号線【道路】 ・錦町2305号線【道路】 ・上大利白木原線【道路】 ・白木原水城駅線【道路】 ・下大利1788号線【道路】 ・白木原下大利駅間歩行者用シェルター【滞在環境整備事業】
○整備方針3 連続立体交差事業による高架下空間等を有効活用し、新たな交流拠点の整備により中心市街地に賑わいを創出する。 ・連立事業後に整備予定の仮線用地を活かした広幅員の歩道において、緑地やストリートファニチャー等が充実した高質な空間とすることで、歩いて楽しい快適な歩行空間を形成する。また、歩道上に大屋根を整備し、高架下と歩道を一体的に活用することで、屋外でのイベント等における活動の幅を広げ、市の中心市街地における新たな賑わい創出を目指す。 ・日常的な憩いの場やイベント時の利用等、多目的な利用を可能とする公園及び広場を高架下に整備することで、天候に関係なく利用することができる地域の新たな賑わい・交流拠点を創出する。 ・既存の鉄道橋を活用し、広場空間として整備することで、鉄道が通る南北だけでなく東西へとつながる新たな賑わい・交流拠点を創出する。 ・連立事業にあわせ下大利駅から特別史跡水城跡まで続く歩行者専用道路を整備予定であり、その拠点施設として広場を整備することで、新たな観光客の獲得を目指す。 ・駅前等において、来訪者に向けた中心市街地内の魅力や情報を伝える情報板の設置を行うことで、中心市街地の活性化や回遊性の向上を目指す。		・白木原下大利駅間大屋根【滞在環境整備事業】 ・白木原下大利線高質空間化【高質空間形成施設】 ・下大利駅西口駅前広場歩行者用シェルター等【滞在環境整備事業】 ・高架下緑道【高質空間形成施設】 ・雑餉隈・栄町高架下交流広場【地域生活基盤施設】 ・牛頸川鉄道橋広場【地域生活基盤施設】 ・白木原高架下公園【公園】 ・特別史跡水城跡欠堤部外濠広場【地域生活基盤施設】 ・地域情報案内板【地域生活基盤施設】
その他		
【まちづくりの住民参加】 ・連立事業完了後のまちづくりを見据え、高架化される3駅(春日原駅、白木原駅、下大利駅)周辺では各駅周辺の商店街や地元住民等を中心としたまちづくり団体が発足し、まちづくり・賑わいづくり等に寄与する様々な活動が行われている。 ・高架下を有効活用したまちづくりを進めるため、沿線住民等からなる「しみん会議(ワークショップ)」の開催や、上記まちづくり団体等との意見交換を重ね、計画の基となる「大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画(案)」を策定した。その後、市内の各団体の代表者や学識経験者等からなる「まちづくり会議」において更なる検討を進め「高架下利用基本計画」を策定した。 【官民連携事業】 高架下施設の整備や、整備後の運営、維持管理を含めた手法として、PFI事業の導入を検討している。		

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

...A

 $\dots B$ 021,449

様式(1)-④-3

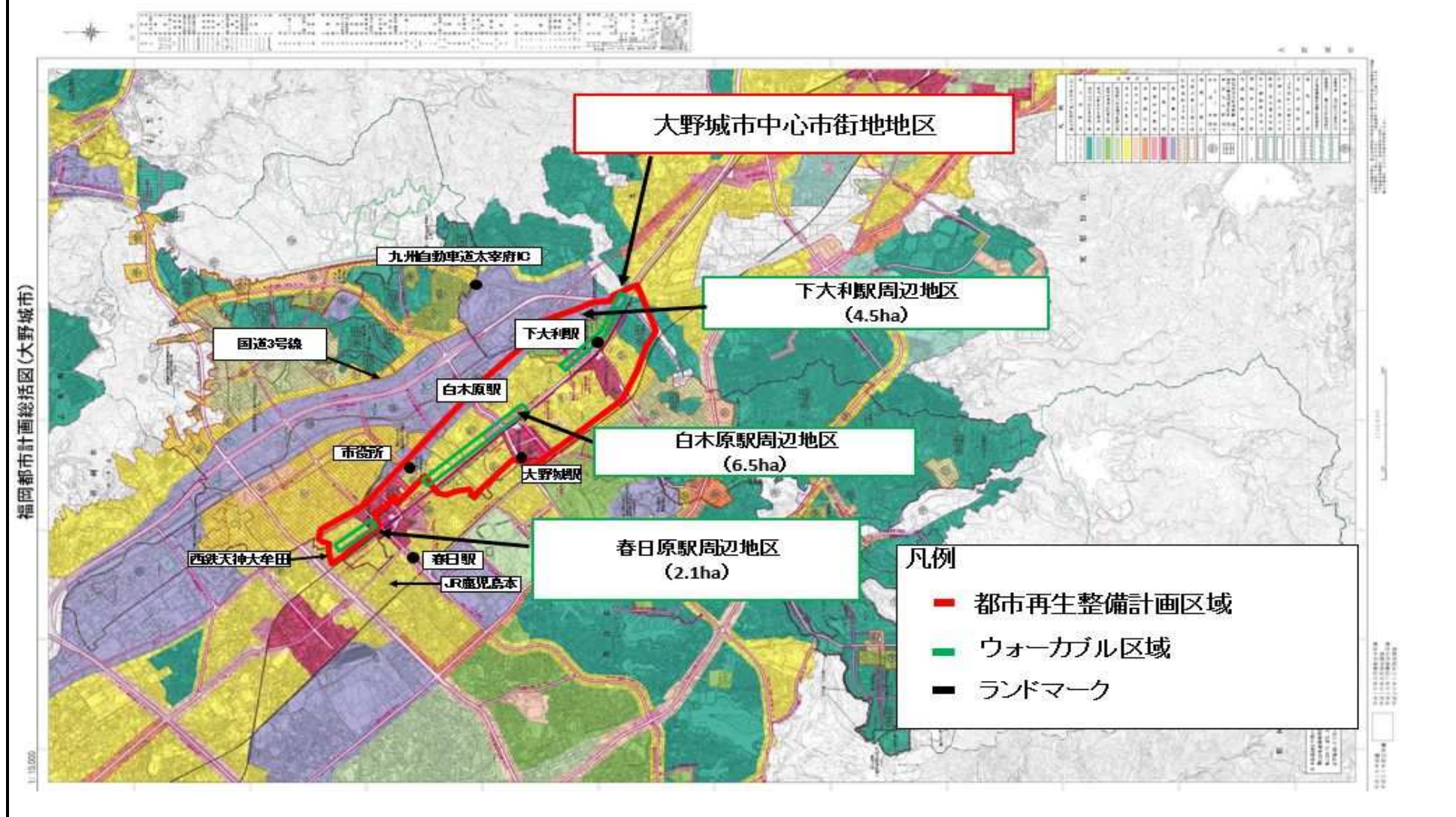
(金額の単位は百万円)

...A

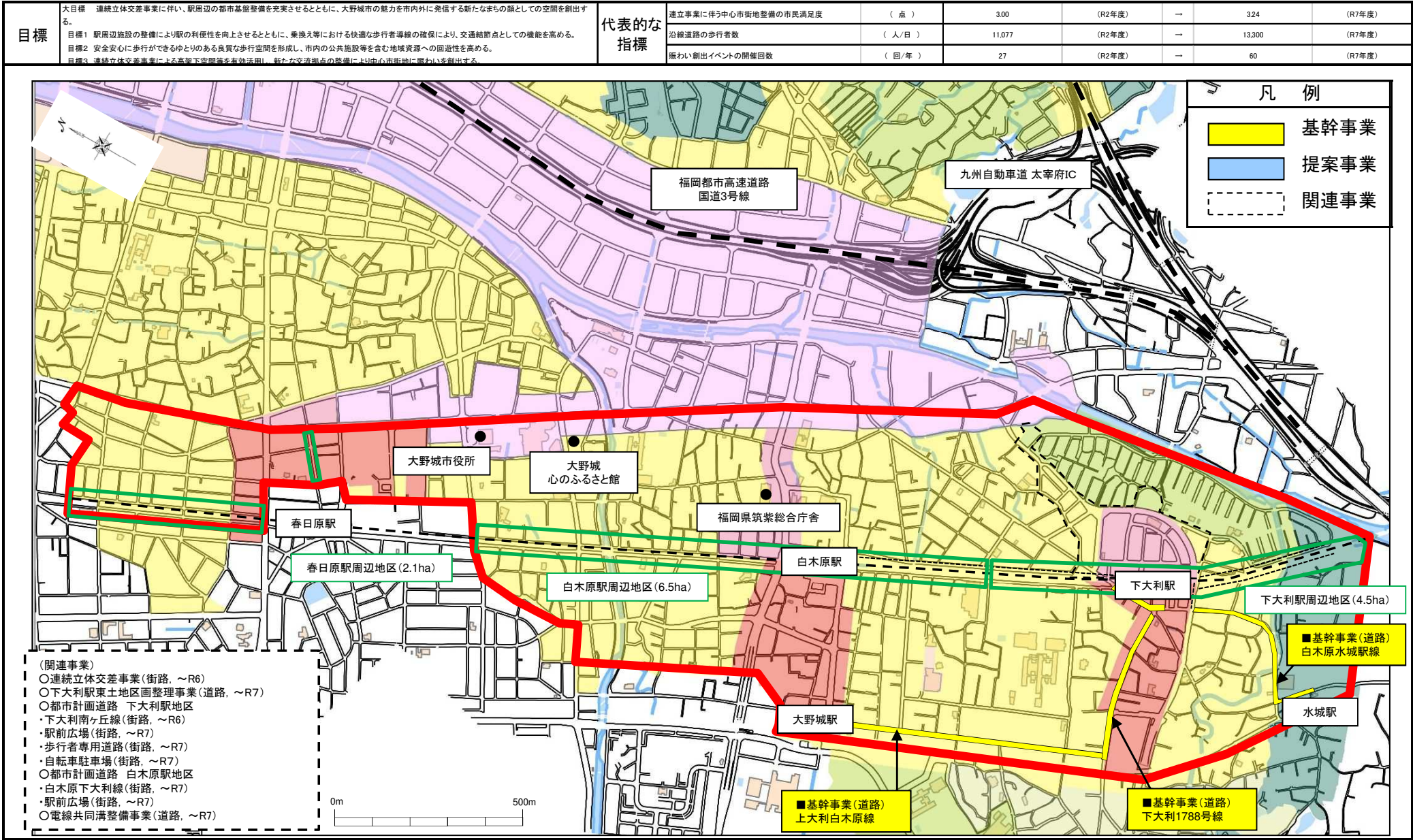
...B

03.5

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



大野城市中心市街地地区(福岡県大野城市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)



目 標	大目標 連続立体交差事業に伴い、駅周辺の都市基盤整備を充実させるとともに、大野城市の魅力を市内外に発信する新たなまちの顔としての空間を創出する。	代表的な指標	連立事業に伴う中心市街地整備の市民満足度	(点)	3.00	(R2年度)	→	324	(R7年度)
	目標1 駅周辺施設の整備により駅の利便性を向上させるとともに、乗換え等における快適な歩行者導線の確保により、交通結節点としての機能を高める。		沿線道路の歩行者数	(人/日)	11,077	(R2年度)	→	13,300	(R7年度)
	目標2 安全安心に歩行ができるゆとりのある良質な歩行空間を形成し、市内の公共施設等を含む地域資源への回遊性を高める。		賑わい創出イベントの開催回数	(回/年)	27	(R2年度)	→	60	(R7年度)
	目標3 連続立体交差事業による富野下交差点の改善により、新たな交通拠点の整備により中心市街地に賑わいを創出する。								

